はるか

些細な困りごとから
もしもの時まで

令和２年春爛漫号

家族葬専門ホール
Funeral space
葬送空間
はるか
運営　武蔵浦和会館
0120-03-0653
〒336-0022　さいたま市南区白幡　5-4-16
FAX 048-864-0649　http://www.sougisha.co.jp
葬送空間はるか　検索

お待たせしました！情報誌はるか春爛漫号をお届けします！！

と、元気にスタートしたいところですが、触れない訳にはいきませんね。『新型コロナウィルス』が、日本列島…いや全世界を襲っております。

皆さん毎日の報道でウンザリされていると思いますし、情報誌が到着する間にも、刻一刻と状況が変わっているはずです。誌面ではコロナに関する細かいお話は控え、少しでも元気を届けたいと思っております。

■『つどい場』の中止

２０１１年に定期的な集いの場をスタートしてから９年が経ちますが、３月よりイベント全面中止に踏み切ることになりました。はるかの代表に就任して以来、どんなに大変な時でも続けてきた『つどい場』の中止は初めてのこと、本当に苦渋の決断でした。

毎月５～６回、定期的にメンバーズさんが集まる『つどい場』では、沢山の会話が飛び交い、笑顔が溢れます。その日ばかりは、葬祭場ではなく『地域のコミュニティスペース』へ様変わりし、皆さんの笑顔が、はるかという会社に活気・活力を与えてくれていました。

メンバーズの皆様も、『つどい場』を楽しみにして下さり、「はるかの集まりが生きがい」とおっしゃってくださる方も大勢いらっしゃいます。

「まさに私たちとメンバーズさんWin-Winの関係が、『つどい場』だったんだ。」と、イベントを中止し静かになった会社で実感しております。

■再開の時期

心情としては一日でも早く再開したいところですが、おそらく皆様よりも、不特定多数の方と対面する機会が多い分、私たちスタッフの方が、感染のリスクは高いかもしれません。何より、皆様の健康面・安全面を優先し、当面の全てのイベントを中止いたします。

再開の時期は報道などを慎重に見守り、終息に向かった段階で、ただちに通知を送らせて頂きます。（すぐに案内を届けられるように準備もしております）

■公式ＨＰ内「社長のひとりごと」

イベントが開催できない。外出や行楽も自粛の雰囲気の中、私にできる事は…と考え、とにかく発信することを始めました。昨年末よりひっそりと公式ＨＰ内に立ち上げた「社長のひとりごと」を、毎回１５００字程度で更新しています。

主に葬儀のことについて綴っているのですが、日常の些細なお話しも伝えていきます。もしご興味のある方は、携帯のカメラ機能、もしくはＱＲコードリーダーを、下のＱＲコードに向けてかざすと自動で読み取ります。けっこう簡単ですので是非お試し下さい！（ガラケーからでもできました）

■コロナに負けるな

日本全体が停滞ムードの中、私たちにできることは？と考えました。それは、皆様の元に有益な情報を発信し、沈みがちなご時世を少しでも明るく過ごして頂くことです。

イベントが開催できない分、誌面を拡充して、より多くの笑顔が届けられるよう工夫をしました。通常の『春爛漫号』に加え『コロナに負けるな特別号』を急遽作成いたしました。それだけでなく、ご自宅にいらっしゃっても皆様と日頃から繋がり、タイムリーに情報を届けられるよう、新たなことを一気にスタートいたします。どうか最後までお付き合い下さいませ。

代表　小杉英介

URLはこちら https://sougisha.co.jp/category/diary/

終活・葬祭カウンセラーの ひとりごと

突然ですが、皆さんご自分の『人生の最期』について話し合っていますか？

新年号の締めは「２０２０年、人生会議、始めませんか？」でした。「人生会議」とは将来自分が、どういう医療や介護を受けたいのか、どういう生き方（死に方）を望むのかを元気なうちから家族や知人、医療関係者などと話し合っておくこと。あれから３ヶ月「ご家族や周囲と話し合ってみた」という方はいらっしゃるでしょうか？

長尾医師講演会

2月中旬『人生会議と平穏死』という講演会に行ってきました。講師は大ファンの長尾医師。通常なら立ち見も出るのですが、コロナの影響で空席も…会は恒例の質問、究極の二択からスタート「もし選べるなら、ガンと認知症どちらがいい？」会場は8対2でガンの勝利。

続いて「最期を迎えるなら、①病院②施設・老人ホーム③自宅　どこがいい？」との問いには、9割の人が「自宅」を選びました。全国どこで聞いても同様な回答になるそうです。

「そうは言っても、いざガンになるとこの世の終わりとばかり嘆きませんか？」長尾医師の言葉に場内爆笑。ですよね「ガンが見つかりました」と言われて「ラッキー！」と喜ぶ人はいないでしょう。「ガン＝死」というイメージが頭をよぎります。

堀ちえみさんの闘病

今やガンは二人に一人がかかるという身近な病気。でも長尾医師は「ガンになったら終わりではなく、むしろ第二の人生の出発点」だと言います。早期発見が望ましいですが、今や、過半数のガンは治るそうです。芸能界でもガンを克服して勇気を与えてくれた人が大勢いますね。最近では、堀ちえみさんの復帰インタビューに感動しました。

舌癌ステージⅣを告げられた堀さんの選択肢は3つ。一つ目は手術療法、二つ目は放射線や抗がん剤などによる治療、三つ目が積極的治療は受けず痛みだけを取り除く緩和ケア。

堀さんの人生会議、家族と医師との話し合い…彼女自身は、絶望の中にいて『これ以上苦しい思いはしたくない、十分頑張ってきたのだから緩和ケアで良いのでは？』という気持ちでした。しかし、『まだお母さんと私16年しか一緒にいない』という娘さんの言葉を聞いて、家族のために病気と闘うことを誓い手術を受けました。

家族の想いに応え闘病の日々を乗り越えリハビリに励み、見事な生還を果たしました。強い女性ですね。

一方で凶悪なガンがあるのも現実です。ガン医療は不確定な要素も多く、「運」としか説明できないケースもあると聞きます。ガン治療に絶対的な正解はありません。だから、後悔しないためにも医者任せではなく自分もよく勉強して、自らが治療の主導権・選択権を持つ賢い患者さんになって欲しいと長尾医師。「十分な緩和医療を受ければ、最期まで自宅で普通の暮らしが出来る人も大勢いる。住み慣れた自宅で最期まで好きなことをしながら笑って過ごせる在宅ホスピス（在宅医療）という選択肢を知って欲しい」在宅医になって25年、多くの方の在宅看取りをしてきた医師の言葉です。

在宅で平穏死できる現実は、病院医師の実に9割が知らないと聞いてびっくり！『おひとりさまの在宅看取り』だって出来るのです。いずれにせよ、大切なのは自分の意志を周囲に伝えておくことですね。終わり良ければ全て良し、「さあ、人生会議始めましょう！」

【編集後記】『神様お願い　この病室から抜け出して七日間の元気な時間をください』▼ガンで亡くなった妻が遺した詩「七日間」の冒頭です。妻亡き後、喪失感を埋めたい、記憶を活字に残したいと、新聞に投稿した夫。▼『妻が願った最期の「七日間」』は、掲載されるとネットで広がり大反響。やがて様々なメディアで取り上げられ52年間の夫婦の物語は本にもなりました。▼ガンの告知を受けた時、妻から「交換日記をやろう」と提案されノートに夫婦の歴史を綴りました。「家に帰ったら何がしたい？」と語りかけた夫に途切れ途切れの言葉で答える妻。とっさに書き留めたのがこの詩「七日間」です。▼妻が最期に望んだのは、ごくありふれた日常。家族や友人、そして最愛の夫と当たり前のように過ごす日々こそが人生最期に望む7つの願いでした。▼在宅医療の手配も整えていたそうですが、願いは叶いませんでした。妻が亡くなってから見つかったノート。そこには副作用のある抗ガン剤治療への迷いや不安、『希望があるのならやって欲しいという意見もあるけど辛いなぁ』という本音が記されていました。▼夫への最後の愛情だと考えて抗がん剤治療を決意した妻。明るく振舞っていた妻にそんな思いがあったとは…笑顔の裏にあった苦しみを初めて知った夫は受け止められずにいました。「今更言っても仕方ないが治療はあれで良かったのか？」と悔やむ毎日。▼亡くなってから2年、悩み続けていた夫に、最愛の妻からのメッセージ「英司へ強く生きて欲しい。私がいなくなっても私と生きた年月は英司の中に遺っているのだから。しっかり生きてくださいね」背中を押され一歩を踏み出した夫。▼「七日間」は歌手クミコさんに依頼し楽曲にもなりました。心に染み入る歌。日常を丁寧に味わうことの大切さを感じます。▼コロナの終息に向けて粛々と過ごす日々。集えないのが寂しい…でも辛い時こそ笑顔！春爛漫号を最後まで読んでいただきありがとうございます。つどい場はるかの再開を心待ちに…

古屋